

図2-7. ポルノ本・雑誌読んだ経験別、性交経験の有無、初交年齢  
(日本)

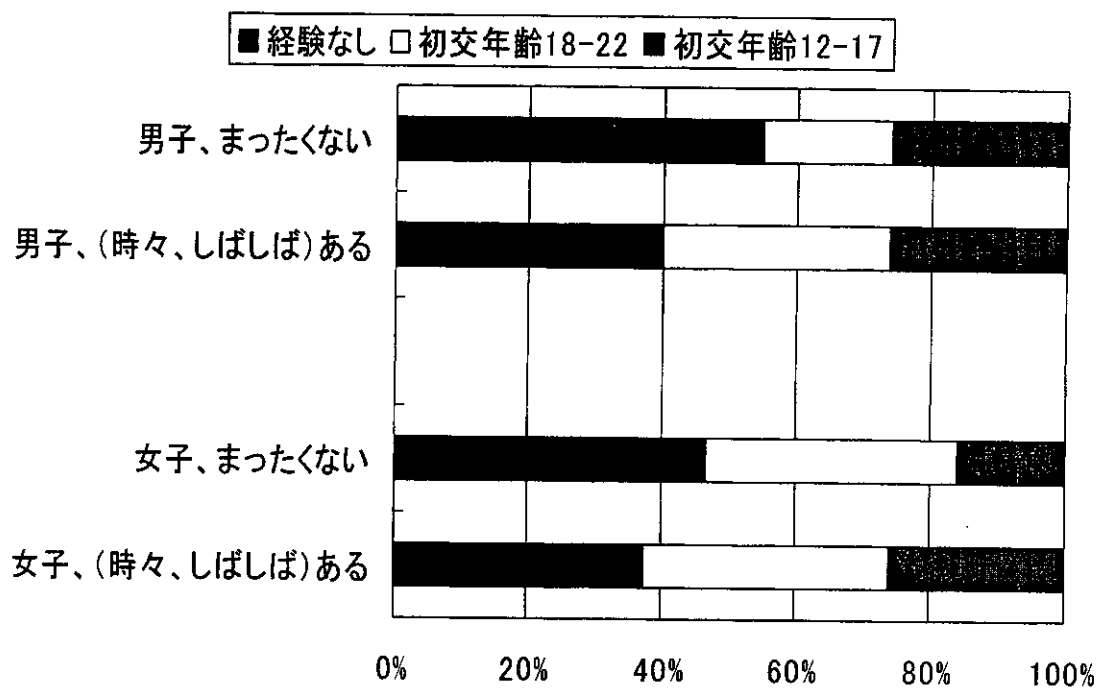


図2-8. スピード運転の経験別、性交経験の有無、初交年齢  
(日本)

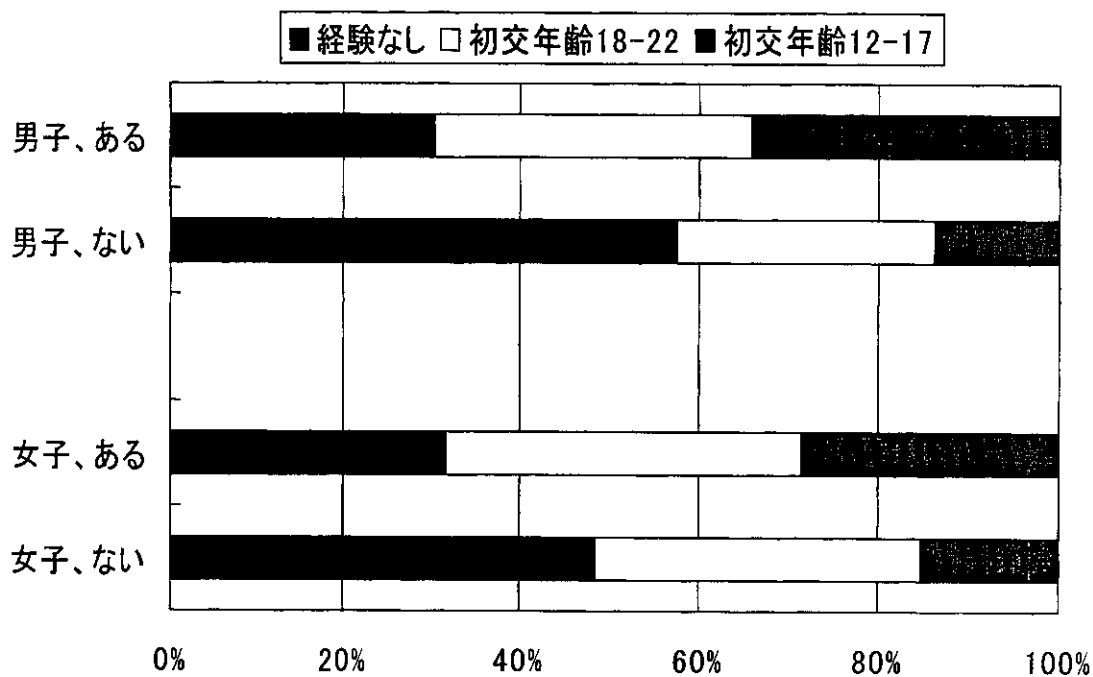


図2-9. 現在の友人の性別、性交経験の有無、初交年齢  
(日本)

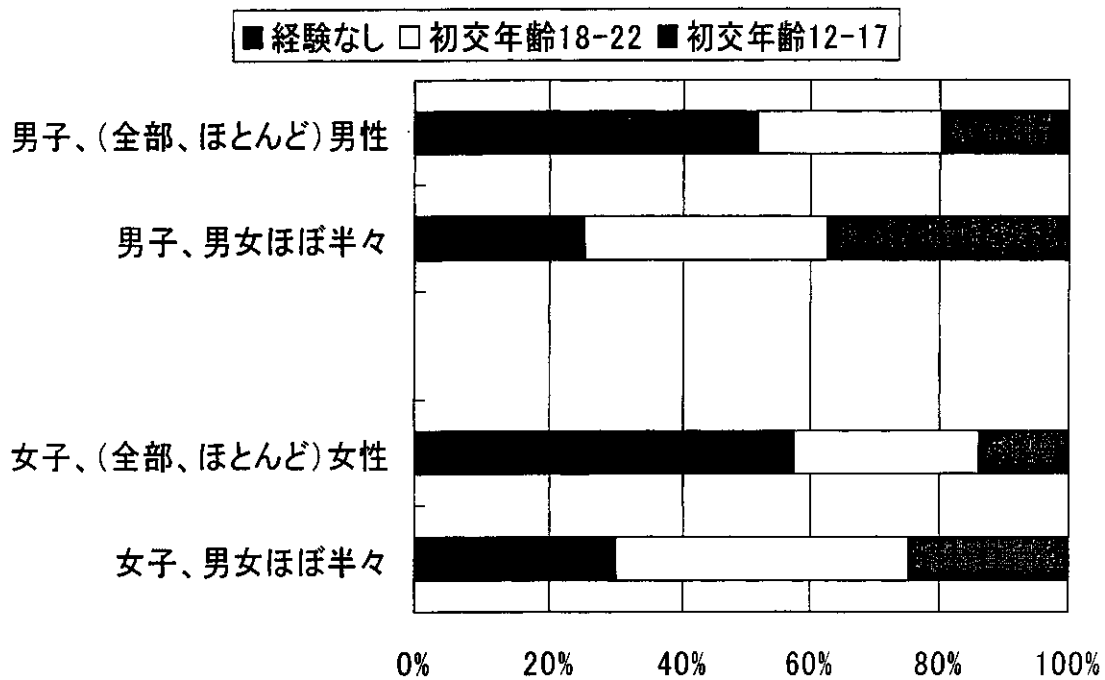


図2-10. ステディな関係の有無別、性交経験の有無、初交年齢  
(日本)

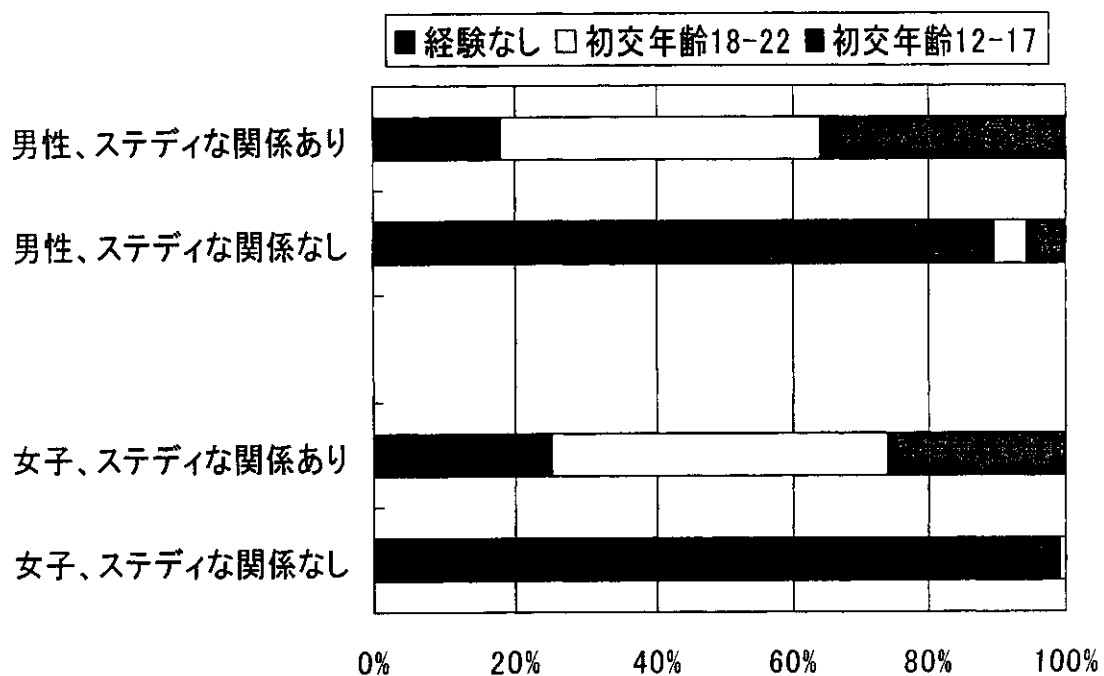


図2-11. 「最新の流行を追うことは好き」への同意別、性交経験の有無、初交年齢（日本）

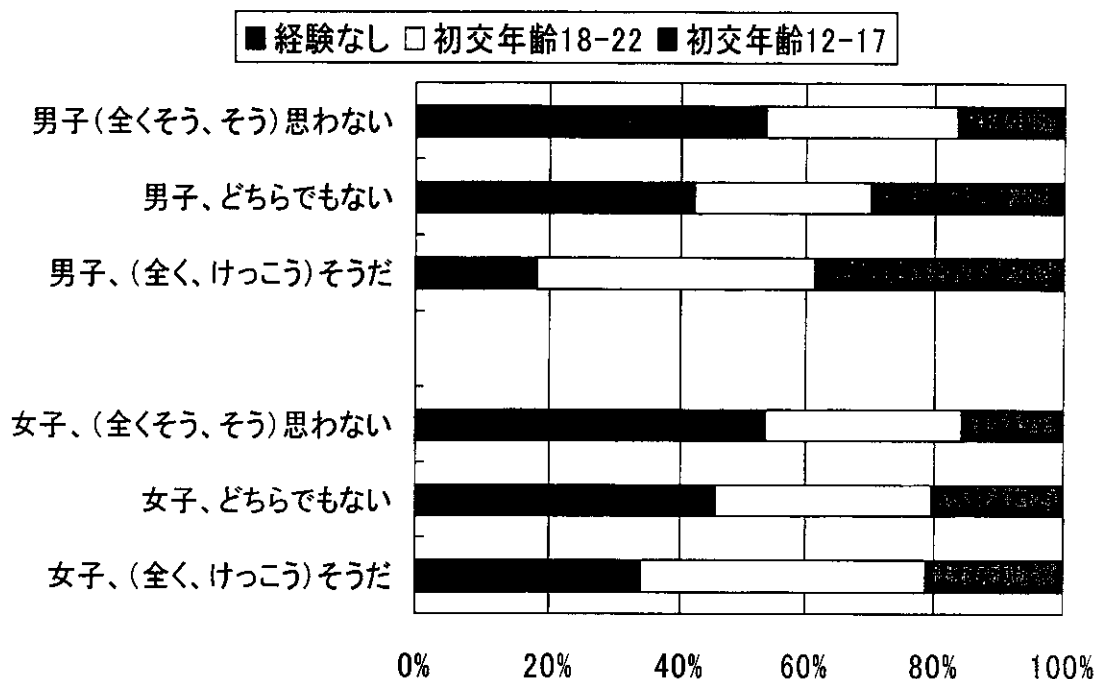


図2-12. 「私の人生は目的がないと感じる」への同意別、性交経験の有無、初交年齢（日本）

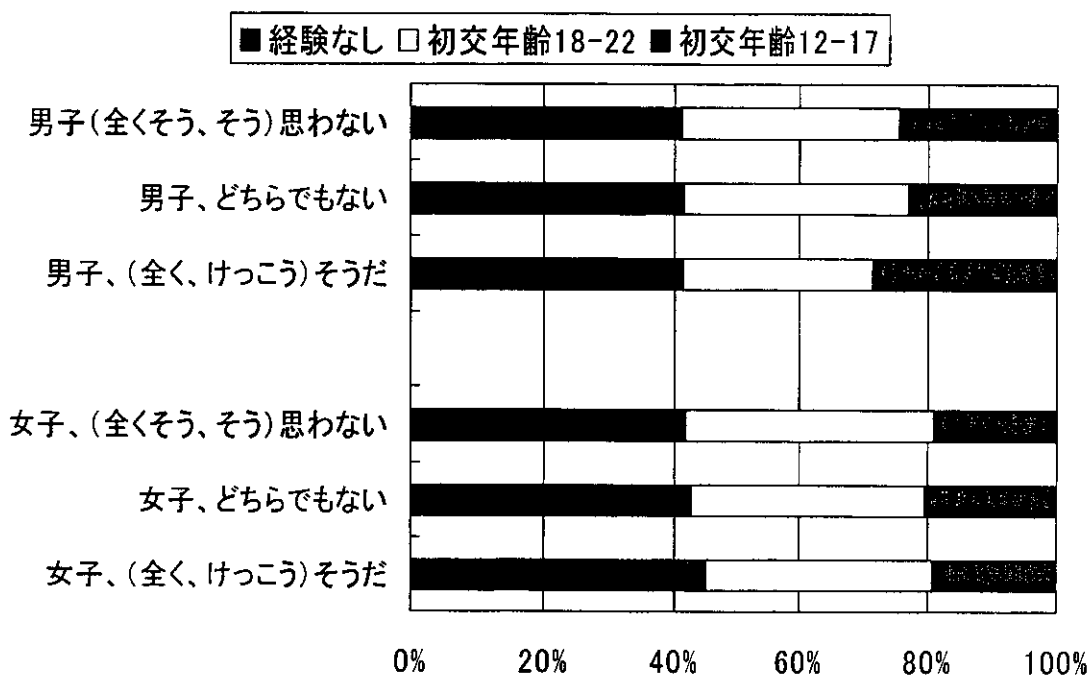


図2-13. 「結婚は永遠である」への同意別、性交経験の有無、初交年齢（日本）

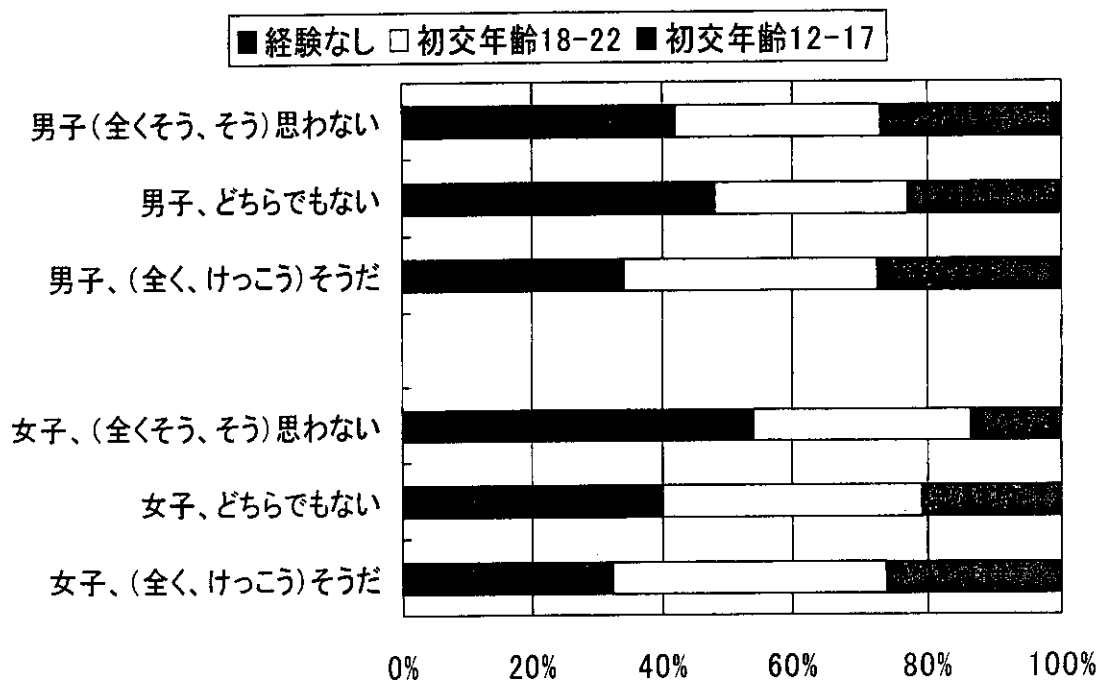


図2-14. 結婚についての考え別、性交経験の有無、初交年齢（日本）

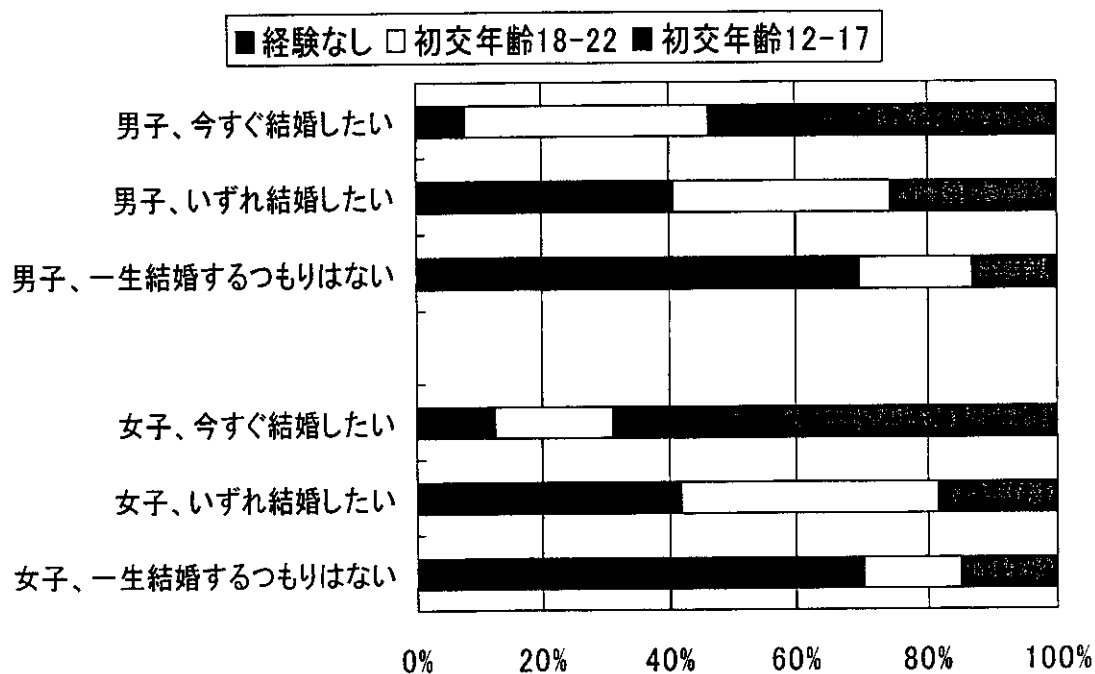
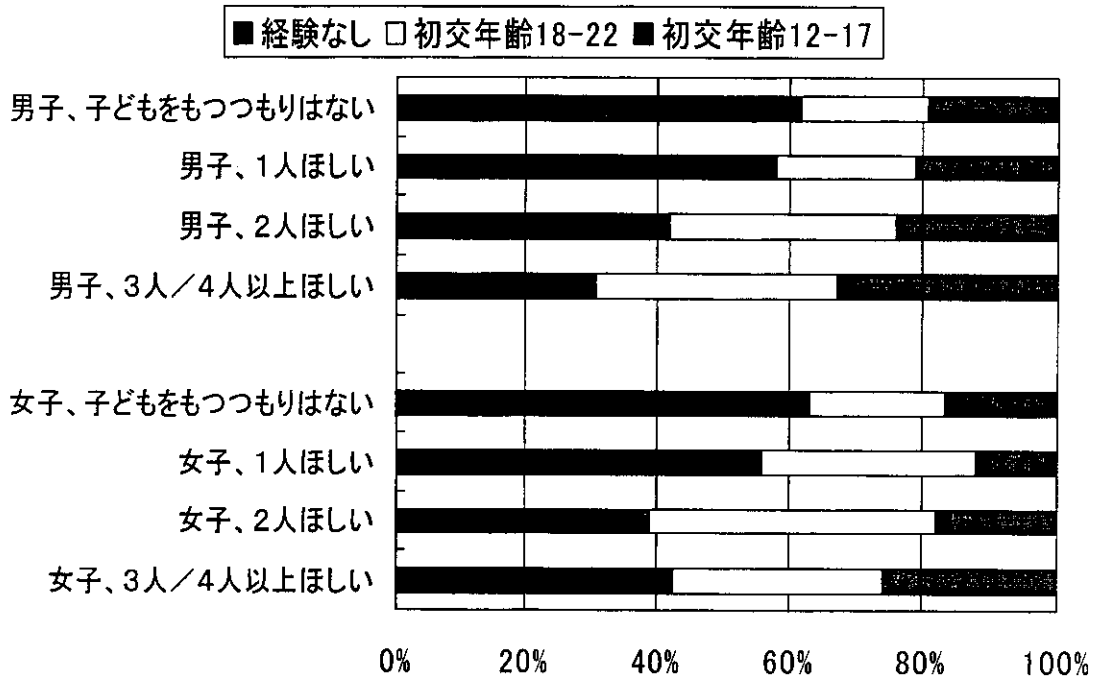


図2-15. 将来子どもをもつことについての考え別、性交経験の有無、初交年齢（日本）



## II. 日本の大学生における性行動に関する価値観の差異 —性別、性交経験別による比較—

中畝菜穂子（大学入試センター研究開発部）

### 1. 目的

近年、初婚年齢が上昇する一方、初交年齢は低年齢化してきており、性交を経験してから結婚に至るまでの期間が延長傾向にあるといえる。このような家族形成の遅滞を含むライフスタイルの変化が顕著になるにつれ、結婚、出産に至るまでの若年者の性行動や性意識に関心が集まるようになってきている。

そこで本稿では、若年者の性行動に関する価値観に、性交経験の有無によって差異がみられるかどうか検討を行う。10代後半から20代前半といった多くの人が性交経験を持つ時期における、既に性交を経験した者と未だ経験しない者との間には、性行動に関する価値観に、将来の性行動を予測する上でも重要となるような差異がみられると思われる。

なお、検討に際しては、性別ごとに分析を行うこととした。一般に、社会から期待される行動には、性別によって違いがみられるが、特に性行動に関しては、それぞれに求められる行動期待が異なるため、社会からの期待を内在化した個人における価値観も、性別によって異なると考えられるためである。

また、性行動をパートナー形成行動と考えれば、若年者の間でも性交経験の有無により、結婚や子供を持つことに対する意識に違いがみられるのではないか。そのため、性行動に関する価値観に加え、結婚や子供を持つことに対する意識の差異についても検討することとした。

### 2. 分析対象者と項目

本稿で用いたデータは、イタリアのジャンピエロ・ダラズアンナ（パドバ大学）との共同研究による日欧大学生性行動比較調査のうち、日本の大学生についてのものである。本調査の経緯・方法と全体の結果の概要については本報告書のIを参照されたい。本分析では対象者として18歳以上22歳以下と回答した者を抽出した。これは性行動に限らず、価値観一般には年齢が及ばず影響が大きいと考えられるためである。分析該当者数は936名であった。

#### 2.1 分析対象者

##### 2.1.1 対象者の属性

分析対象者となったのは、男子341名（36.8%）、女子586名（63.2%）であった（性別不詳の者は除いた）。今回の調査は、文系の学部を中心に実施されたため、女子の回答者が多いデータとなっている。男子の平均年齢は20.32歳（*S.D.* 0.94）、女子の平均年齢は20.08

表1 性別×性交経験の有無の人数  
(カッコ内は%)

	男子	女子
性交経験有り	200 (58.82)	332 (57.04)
性交経験無し	140 (41.18)	250 (42.96)

歳 (*S.D.* 0.87) であった。男子の平均年齢の方が、女子よりやや高めとなっている。男子は女子と比較し、一般に浪人比率が 10% から 15% 高い (吉原, 1998)。そのため、男子の平均年齢が高くなっているものと思われる。

### 2.1.2 性別・性交経験別の対象者の属性

男女別の性交経験率をみると、男子では性交経験有りが 200 名、経験無しが 140 名、女子では性交経験有りが 332 名、経験無しが 250 名であった (表 1)。性別による性交経験率には違いは見られなかった ( $\chi^2(1)=0.278, N.S.$ )。男女とも性交経験率は 6 割弱であった。

男女別の性交経験の有無による回答者の平均年齢は、男子の性交経験有りの回答者で 20.39 歳 (*S.D.* 0.95)、性交経験無しの回答者で 20.22 歳 (*S.D.* 0.93)、女子の性交経験有りの回答者で 20.17 歳 (*S.D.* 0.86)、性交経験無しの回答者で 19.95 歳 (*S.D.* 0.86) であった。男子においては性交経験の有無によって平均年齢に有意差はみられなかったが ( $t_{338}=1.62, N.S.$ )、女子では有意差がみとめられた ( $t_{336}=3.47, p<.0006$ )。女子では、性交経験の有る回答者の平均年齢の方が、性交経験の無い回答者に比べて、高いことが明らかになった。

## 2.2 分析項目

### 2.2.1 性行動に関する価値観

性行動に関する価値観を問う項目として、調査票中の問 K-7 の 12 項目を使用した。各項目は、性行動にまつわるさまざまな状況について、回答者の友人、両親、そして回答者自身がそれぞれどのように考えるかを問う形式となっている。最終的に 12 の状況について各々 3 つの立場からの回答になるため、質問項目数は合計 36 項目となる (質問項目の詳細については付録の調査票を参照)。

### 2.2.2 性行動、結婚に関する年齢規範

性行動、結婚に対する年齢規範を問う項目として、問 K-1 から問 K-4 を使用した。ここでいう年齢規範とは、例えば「何歳までは性交経験をすべきでないあなたは考えますか」などの「何歳までは何々すべきでない」、あるいは「何歳までには何々すべきである」といったある行為を行う年齢に関する規範である。行為を行うのが男性の場合、女性の場合にわけて尋ねているので、項目数は全部で 8 項目となる。

### 2.2.3 結婚、子供を持つことに対する意識

回答者自身が、結婚についてどのように考えているか尋ねる項目として問 K-10、回答者自身が、子供をもつことについてどのように考えているか尋ねる項目として問 K-11 を使用した。

### 3. 調査結果及び考察

#### 3.1 性行動に関する価値観にみられる性別、性交経験の有無の影響

##### 3.1.1 性行動に関する価値観の構造

今回の調査には、全 36 項目の性行動に関する価値観を問う項目が含まれているが、ここでは因子分析によって、性行動に関する価値観を構造的に把握することを試みる。これにより、性行動に関するさまざまな価値観を、その背後に存在するいくつかの価値体系 (= 因子) として分類することが可能となる。また 36 項目全てについて性別、性交経験の有無の影響を検討していくのは煩雑となるが、因子分析を行うことによって、少数の因子に対して性別、性交経験の有無の影響をみていくことができる。

回答者の属性により、因子構造が異なっている可能性を考慮し、男女別に因子分析を行ったが、得られた構造がどちらの集団においてもほぼ同一であったため、本稿では回答者全体による因子分析の結果を用いることとした。主成分法による因子分析により、累積寄与率が 50% を越える第 3 因子までを因子として採用し、バリマックス回転を行った。第 3 因子までの累積寄与率は 50.8% であった。回転後の因子負荷量を表 2 に示す。

第 1 因子は、「決まった相手のいない女性が、行きずりの相手と性関係をもつ」、「女性が非常に若い年齢で性交を経験する」、「付き合っている相手 (ステディな関係) のいる男性が、ある日『一夜だけの情事』をする」等の項目に因子負荷量が高い。これらの項目は、性行動が活発であることに対する価値観を示していると考えられる。そこで、第 1 因子を「性行動の活発性に対する価値観」と命名した。

第 2 因子は、「女性がかかり年齢が高くなっても処女のままでいる」、「男性が結婚するまで童貞でいる」等の項目で因子負荷量が高く、性行為を行わないことに対する価値観と解釈される。そのため、第 2 因子を「純潔性に対する価値観」と名づけた。「純潔」という単語は、それ自体を是とする価値観を表現してしまう懸念があるが、他に適切な単語がないため、この単語を用いることとした。

第 3 因子は、「女性が他の女性と性的関係をもつ」、「男性が他の男性と性的関係をもつ」という同性愛に対する項目で因子負荷量が高い。そこで、第 3 因子を「同性愛に対する価値観」とした。

分析項目のところで述べたように、性行動に関する価値観を問う項目は、12 の状況と各状況に対する友人、両親、自分自身という 3 つの立場からの回答となっている。友人という同世代の価値観、両親という年配世代の価値観、自分自身の価値観という、立場の違いによる因子構造がみられることも予想されたが、因子分析の結果、状況の種類によって各因子が構成されていることが明らかになった。

##### 3.1.2 性行動に関する価値観の性別、性交経験別による比較

得られた 3 つの因子に基づき、性別ごとに性交経験の有無による価値観の比較を行う。ここでは、各因子に負荷量が高い質問項目を個人について合計し、項目数で除したものをそれぞれの価値観に対する得点とする。4 点尺度で尋ねているので、得点が 2.5 点以下であ



れば否定的、2.5 点以上であれば各価値観に対して肯定的であることを表す。

#### (1) 性行動の活発性に対する価値観

男子の性交経験有りの回答者平均値は 2.18 (*S.D.* 0.61)、性交経験無しの平均値は 2.07 (*S.D.* 0.55) であった (図 1)。両群を比較した場合、性交経験がある方が、性行動の活発性に対して肯定的な傾向にあるが、統計的には有意な差ではなかった ( $t_{324}=1.74$ , *N.S.*)。女子の性交経験有りの回答者平均値は 1.81 (*S.D.* 0.44)、性交経験無しの平均値は 1.71 (*S.D.* 0.42) であった。数値で見ると性行動の活発性に対しては、両群とも否定的であるが、相対的には、性交経験がある方が、性行動の活発性に対して肯定的な価値観を有していることが明らかになった ( $t_{570}=2.85$ ,  $p<.005$ )。男子と女子の平均値を比較した場合、男子の方が性行動の活発性に対して肯定的であることがわかった。

#### (2) 純潔性に対する価値観

男子の性交経験有りの平均値は 2.38 (*S.D.* 0.78)、性交経験無しの平均値は 2.56 (*S.D.* 0.77) であった (図 2)。性交経験のないグループの方が、純潔性に対して肯定的な態度を持っていることがわかった ( $t_{329}=-2.1$ ,  $p<.04$ )。女子の性交経験有りグループの平均値は 2.55 (*S.D.* 0.66)、性交経験無しグループの平均値は 2.73 (*S.D.* 0.60) であった。男子と同様、性交経験がない方が純潔性に対して肯定的であることがわかった ( $t_{568}=-3.31$ ,  $p<.001$ )。男子と女子の平均値を比較した場合、女子の方が、年齢が高くなっても性行為を経験しないでいること、結婚まで性行為を経験しないでいることに対して肯定的であることが明らかになった。男子の性交経験有りのグループを除き、平均値が 2.5 点以上となっており、これらのグループは、純潔性に対する価値観に対しては、数値上でも肯定的な価値観を持っていることが示された。

#### (3) 同性愛に対する価値観

男子の性交経験有りの回答者平均値は 1.35 (*S.D.* 0.56)、性交経験無しの平均値は 1.49 (*S.D.* 0.63) であった (図 3)。相対的にみると性交経験がない回答者の方が、同性愛に対して肯定的であることがわかった ( $t_{329}=-2.15$ ,  $p<.03$ )。女子の性交経験有りグループの平均値は 1.56 (*S.D.* 0.65)、性交経験無しの平均値は 1.76 (*S.D.* 0.68) であった。男子と同様、相対的には性交経験のない群の方が、同性愛に対して肯定的な価値観を持っているという結果になった ( $t_{570}=-3.51$ ,  $p<.0005$ )。男子と女子で比較した場合、女子の方が同性愛に対して肯定的であることが明らかになった。女子の方が同性愛に対して肯定的であるという結果は、先行研究とも一致するものである (木原他, 2000)。

### 3.2 性行動、結婚に関する年齢規範にみられる性別、性交経験の有無の影響

前述したように各項目は、それぞれ男性の場合、女性の場合に分けて尋ねる形式になっている。

#### (1) 何歳まで性交経験をすべきでないか

男性は何歳まで性交経験をすべきでないかという項目では、男子の性交経験有りの回答者平均値は 15.75 歳 (*S.D.* 2.40)、性交経験無しの平均値は 16.71 歳 (*S.D.* 2.86) であった (図 4)。性交経験のないグループの回答の方が、約 1 歳ほど高くなっている ( $t_{256.1}=-3.21$ ,

$p<.002$ )。同項目に対して、女子の性交経験有りの平均値は 16.18 歳 ( $S.D.$  3.71)、性交経験無しの平均値は 16.98 歳 ( $S.D.$  2.27) で、男子と同様、性交経験がない方が約 1 歳ほど年齢規範を高く考えていることがわかった ( $t_{540.5}=-3.15, p<.002$ )。

女性は何歳まで性交経験をすべきでないかという項目では、男子の性交経験有りグループの平均値が 15.79 歳 ( $S.D.$  2.48)、性交経験無しの平均値が 16.48 歳 ( $S.D.$  2.74) であった (図 5)。両群間には統計的な有意差がみとめられたが ( $t_{323}=-2.37, p<.02$ )、男性項目と比較すると両群の平均値の差は縮まっている。女子における性交経験有りの回答者の平均値は 16.42 歳 ( $S.D.$  3.92)、性交経験無しの平均値は 17.17 歳 ( $S.D.$  2.48) であった ( $t_{556}=-2.81, p<.005$ )。

全体に女性に対する年齢規範の方が高く見積もられる傾向にあるが、男子の性交経験無し群では、男性に対する年齢規範の方が高くなっている。

### (2)何歳まで処女・童貞でいたら遅すぎるか

男性は何歳まで童貞でいたら遅すぎると思うかという項目では、男子の性交経験有りの回答者平均値は 23.25 歳 ( $S.D.$  7.48)、性交経験無しの平均値は 27.92 歳 ( $S.D.$  13.09) となった (図 6)。性交経験がない方が、男性が年齢的に遅くまで性交経験を持たなくても構わないと感じていることがわかった ( $t_{188.3}=-3.72, p<.0003$ )。女子の性交経験有りのグループでは平均値は 24.34 歳 ( $S.D.$  6.34)、性交経験無しのグループの平均値は 26.48 歳 ( $S.D.$  8.60) だった。男子と同様、性交経験がない回答者の方が年齢的に遅くまで性交経験がなくとも構わないと感じていることが明らかになった ( $t_{422}=-3.25, p<.001$ )。

女性は何歳まで処女でいたら遅すぎると思うかという項目では、男子の性交経験有りの回答者平均値は 23.20 歳 ( $S.D.$  7.19)、性交経験無しの回答者平均値は 27.42 歳 ( $S.D.$  12.86) であった (図 7)。性交経験がないグループの方が、女性が年齢的に高くなるまで性交経験を持たなくても良いと思っていることがわかった ( $t_{185.3}=-3.41, p<.0008$ )。女子の性交経験有りの回答者平均値は 25.64 歳 ( $S.D.$  7.86)、性交経験無しの回答者平均値は 27.34 歳 ( $S.D.$  8.31) だった。性交経験がない女子の方が、女性は年齢的に高い段階まで性交を経験しなくても構わないと考えていることが示された ( $t_{565}=-2.49, p<.01$ )。

この項目に関しては、どの回答者グループにおいても標準偏差が大きく、個人による回答のばらつきが大きいことが確認された。

### (3)何歳まで結婚すべきでないか

男性が何歳まで結婚すべきでないかという項目では、男子の性交経験有りのグループで 21.44 歳 ( $S.D.$  3.25)、性交経験無しのグループで 21.22 歳 ( $S.D.$  3.49) であった (図 8)。性交経験の有無によって、回答に有意差はみられなかった ( $t_{332}=0.60, N.S.$ )。同項目に対する女子の性交経験有りの平均値は 20.66 歳 ( $S.D.$  3.29)、性交経験無しの平均値は 20.59 歳 ( $S.D.$  3.37) であった。男子と同様、性交経験の有無による平均値の差はみられなかった ( $t_{563}=0.25, N.S.$ )。

女性は何歳まで結婚すべきでないかという項目では、男子の性交経験有りの平均値は 20.21 歳 ( $S.D.$  2.94)、性交経験無しの平均値は 20.33 歳 ( $S.D.$  3.31) だった (図 9)。性交経験の有無によって、回答に有意差はみられなかった ( $t_{326}=-0.36, N.S.$ )。女子の性交経験

験有りの平均値は 19.90 歳 (*S.D.* 5.26)、性交経験無しのグループでは 19.84 歳 (*S.D.* 3.25) であった。性交経験の有無による平均値の差はみられなかった ( $t_{551,8}=0.16, N.S.$ )。

全体的に、女性に対する年齢規範と比較すると、男性の方が年齢的に高い段階まで結婚すべきでないと考えられていることが明らかになった。

#### (4) 何歳まで未婚でいるべきでないか

男性が何歳まで未婚でいるべきでないかという項目に対しては、男子の性交経験有りの回答者は平均 36.66 歳 (*S.D.* 11.74)、性交経験無しは平均 38.15 歳 (*S.D.* 14.61) という結果となった (図 10)。性交経験の有無によって、平均値に有意差はみとめられなかった ( $t_{231,5}=-0.97, N.S.$ )。この項目に対する女子の性交経験有りの平均値は 37.87 歳 (*S.D.* 10.21)、性交経験無しの平均値は 39.47 歳 (*S.D.* 12.77) であった。両群の平均値に統計的な有意差はみられなかった ( $t_{418,9}=-1.55, N.S.$ )。

女性が何歳まで未婚でいるべきでないかという項目では、男子の性交経験有りグループの平均値は 34.15 歳 (*S.D.* 12.02)、性交経験無しのグループは 36.35 歳 (*S.D.* 14.92) であった (図 11)。性交経験の有無による平均値の差はみられなかった ( $t_{231,1}=-1.39, N.S.$ )。女子における性交経験有りの回答者の平均値は 35.36 歳 (*S.D.* 10.92)、性交経験無しの平均値は 37.28 歳 (*S.D.* 12.88) であった。女子においても、両群の平均値に有意差はみられなかった ( $t_{439,2}=-1.82, N.S.$ )。

(3) の項目とは逆に、女性の方が男性と比較して、年齢的に早い段階で結婚すべきであると考えられている傾向がみられた。何歳まで結婚すべきでないか、何歳まで未婚でいるべきでないかという項目については、男子、女子とも性交経験の有無による差異はみられなかった。

また (2) の項目と同様、この項目に関しても標準偏差が大きく、個人による回答のばらつきが大きいことが明らかとなった。当該行為を遅くまで行わないことに対する年齢規範は、当該行為を早く行い過ぎることに対する年齢規範と比較すると、同一カテゴリー内の回答者間でも個人によってかなり異なっているといえる。

### 3.3 結婚、子供を持つことに対する意識にみられる性別、性交経験の有無の影響

#### (1) 結婚に対する意識

性別ごとに、性交経験の有無による結婚に対する意識の差異を  $\chi^2$  検定によって検討した。男子、女子とも性交経験の有無によって、結婚に対する意識に有意差がみられた (図 12:  $\chi^2_{(2)}=15.01, p<.001$ ;  $\chi^2_{(3)}=22.68, p<.001$ )。

男子の性交経験のないグループでは、いますぐ結婚したいと回答した者は 0.7% であったのに対し、性交経験のあるグループでは 7.0% であった。一方、一生結婚するつもりはないと回答した者は、性交経験のあるグループで 3.5%、性交経験のないグループで 11.5% だった。いずれ結婚したいと回答した者が、性交経験有りで 89.5%、性交経験無しで 87.8% と両群ともに非常に高い割合となっているが、いますぐ結婚したい、または一生結婚するつもりはないと回答する者の割合に性交経験の有無によって差異がみられることが示された。

女子の性交経験がある回答者で、いますぐ結婚したいと回答した割合は 4.2%、性交経験

がない回答者では 0.8%であった。いずれ結婚したいという回答は、性交経験有りグループで 90.3%、性交経験無しグループで 84.7%と性交経験有りグループの方が 5%程度、高い結果となっている。一生結婚するつもりはないという回答は、性交経験有りで 4.9%、性交経験無しで 14.5%であった。

性別で比較すると、女子の方がいますぐ結婚したいと回答した割合が低く、一生結婚するつもりはないと回答した割合が高かった。今回調査対象となった大学生という集団においては、男子に比べ、女子の結婚願望の方が弱いのかもかもしれない。

## (2) 子供を持つことに対する意識

この項目は、5段階尺度で尋ねており、数値が高いほど将来欲しい子供の数が多いことを表す。男子の性交経験有りの平均値は 3.24 (*S.D.* 0.82)、性交経験無しの平均値は 2.91 (*S.D.* 0.90)であった (図 13)。性交経験の有無によって平均値に有意差がみられることが明らかになった ( $t_{336}=3.47, p<.0006$ )。性交経験のある方が、性交経験のない群と比較すると、より多く子供を欲しいと考えていることがわかった。平均値でみると、選択肢 2 は「子供を 1人ほしい」、3 は「2人ほしい」、4 は「3人ほしい」なので、性交経験有り群では 2人と 3人の間、性交経験無し群では 1人と 2人の間の子供がほしいと考えている。

女子の性交経験有りグループの平均値は 3.12 (*S.D.* 0.83)、性交経験無しグループでは 2.94 (*S.D.* 0.99)であった。男子と同様、性交経験の有無によって平均値に差がみられることがわかった ( $t_{478,2}=2.39, p<.02$ )。性交経験のある群の方が、性交経験のない群と比較し、より多く子供を欲しいと考えていることが明らかとなった。平均値でみると、性交経験がある群で 2人と 3人の間、性交経験のない群で 1人と 2人の間の子供がほしいと考えている。

## 4. まとめ

本稿で得られた結果をまとめると以下ようになる。

(1) 性行動に関する価値観は、性行動の活発性に対する価値観、純潔性に対する価値観、同性愛に対する価値観という大きく 3つの価値構造で成り立っていることがわかった。性行動の活発性に対しては、女子は性交経験のある者の方が肯定的であり、男子でもその傾向がみられた。純潔性や同性愛に対しては男女とも性交経験のない者の方が肯定的な価値観を有していることが明らかとなった。性行動の活発性や、純潔性に対する回答者の価値観は、それぞれ自分の立場（性交経験があるかないか）を肯定的にとらえようとするところから生じているのかもかもしれない。同性愛については、全体的に、数値でみるとかなり否定的な傾向にあるといえる。

(2) 性行動・結婚に関する年齢規範では、何歳まで性交経験をすべきでないか、何歳まで性交経験をしないと遅すぎるかといった性行動についての年齢規範で、回答者の性交経験の有無が影響していることが明らかになった。どちらの項目についても性交経験がない方が年齢規範を高く設定していることがわかった。何歳まで結婚すべきでないか、何歳まで未婚でいるべきでないかという結婚に関する年齢規範には、性交経験の有無による差異はみ

られなかった。結婚に対する年齢規範については、性交経験の有無ではない他の要因が影響しているものと思われる。

(3) 男女とも性交経験の有無によって、結婚に対する意識に差異があることが示された。性交経験のない者に比べ、性交経験のある者の方が今すぐ結婚したいと回答する割合が高かった。また、欲しい子供の数についても男女とも性交経験の有無によって違いがあることがわかった。性交経験のある者の方がより多くの子供を欲しいと考えていることが明らかになった。将来、自分が結婚することや子供を持つことに対しては、性交経験がある者の方が積極的であるといえる。

価値観については、ある価値観が先にあると、それに従った行動をするのか、行動が先にあり、その行動を支持する価値観を持つようになるのか、判別がつきにくい面がある。仮に後者の原理が強く作用するのだとしたら、性交未経験者の価値観は性交を経験することによって変化する可能性が高いといえる。今回の調査で明らかになった、性行動に対して保守的で、また結婚や子供を持つことに対してはやや消極的であるという、性交未経験者の価値観が、今後、性交を経験することによってどのように変化していくのかは、若年者の性行動について検討していく上で、重要な課題となろう。

## 引用文献

- 木原正博・木原雅子・内野英幸・石塚智一・尾崎米厚・島崎継雄・杉森伸吉・土田昭司・中畝菜穂子・養輪眞澄・山本太郎(2000)「日本人の HIV/AIDS 関連知識、性行動、性意識についての全国調査 (HIV & AIDS in JAPAN Survey) —日本人の HIV/STD 関連知識、性行動、性意識に関する性・年齢別分析—」『HIV 感染症の疫学研究班(平成 11 年度厚生科学研究費 エイズ対策研究事業 特別重点研究: 班長 木原正博) 総会討議資料』(未公刊) pp. 158-175.
- 吉原恵子(1998)「異なる競争を生み出す入試システム—高校から大学への接続にみるジェンダー分化」『教育社会学研究』 62, 43-67.

表2 性行動に関する価値観の因子分析(バリマックス回転後)

	性行動の活発性 に対する価値観	純潔性に対 する価値観	同性愛に対 する価値観
決まった相手のいない女性が、行きずりの相手と性関係をもつ(私)	0.723	-0.052	0.075
決まった相手のいない女性が、行きずりの相手と性関係をもつ(友人)	0.707	-0.028	0.044
決まった相手のいない男性が、行きずりの相手と性関係をもつ(私)	0.693	-0.073	0.050
女性が非常に若い年齢で性交を経験する(私)	0.664	-0.025	-0.081
男性が非常に若い年齢で性交を経験する(私)	0.661	-0.055	-0.092
付き合っている相手(ステディな関係)のいる男性が、ある日「一夜だけの情事」をする(私)	0.661	-0.106	-0.033
付き合っている相手(ステディな関係)のいる女性が、ある日「一夜だけの情事」をする(私)	0.650	-0.064	-0.043
付き合っている相手(ステディな関係)のいる女性が、ある日「一夜だけの情事」をする(友人)	0.636	-0.038	-0.014
決まった相手のいない女性が、行きずりの相手と性関係をもつ(両親)	0.624	-0.005	0.333
決まった相手のいない男性が、行きずりの相手と性関係をもつ(両親)	0.622	-0.045	0.342
決まった相手のいない男性が、行きずりの相手と性関係をもつ(友人)	0.617	-0.071	-0.014
女性が非常に若い年齢で性交を経験する(友人)	0.610	0.010	-0.127
男性が非常に若い年齢で性交を経験する(両親)	0.607	0.029	0.158
付き合っている相手(ステディな関係)のいる男性が、ある日「一夜だけの情事」をする(両親)	0.590	-0.043	0.220
付き合っている相手(ステディな関係)のいる男性が、ある日「一夜だけの情事」をする(友人)	0.577	-0.030	-0.068
付き合っている相手(ステディな関係)のいる女性が、ある日「一夜だけの情事」をする(両親)	0.573	-0.009	0.236
女性が非常に若い年齢で性交を経験する(両親)	0.558	0.040	0.200
男性が非常に若い年齢で性交を経験する(友人)	0.543	-0.034	-0.128
女性がかかなり年齢が高くなっても処女のままている(私)	-0.038	0.810	0.126
男性が結婚するまで童貞である(私)	-0.120	0.766	0.134
男性がかかなり年齢が高くなっても童貞のままている(私)	-0.008	0.758	0.192
女性が結婚するまで処女である(私)	-0.119	0.755	0.092
女性がかかなり年齢が高くなっても処女のままている(友人)	-0.005	0.754	0.087
男性がかかなり年齢が高くなっても童貞のままている(両親)	0.076	0.737	0.031
女性がかかなり年齢が高くなっても処女のままている(両親)	0.014	0.737	-0.004
女性が結婚するまで処女である(友人)	-0.083	0.732	0.098
男性が結婚するまで童貞である(両親)	-0.130	0.718	-0.020
女性が結婚するまで処女である(両親)	-0.133	0.675	-0.060
男性が結婚するまで童貞である(友人)	-0.063	0.674	0.123
男性がかかなり年齢が高くなっても童貞のままている(友人)	0.084	0.618	0.105
女性が他の女性と性的関係をもつ(両親)	0.063	0.074	0.853
男性が他の男性と性的関係をもつ(両親)	0.020	0.083	0.834
女性が他の女性と性的関係をもつ(友人)	0.064	0.163	0.804
女性が他の女性と性的関係をもつ(私)	0.079	0.131	0.785
男性が他の男性と性的関係をもつ(私)	-0.006	0.115	0.783
男性が他の男性と性的関係をもつ(友人)	0.034	0.162	0.770
因子寄与率(%)	21.5	19.3	10.0

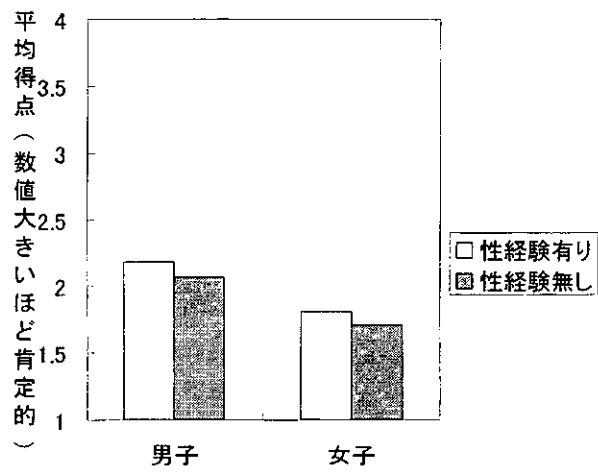


図1 性行動の活発さに対する価値観

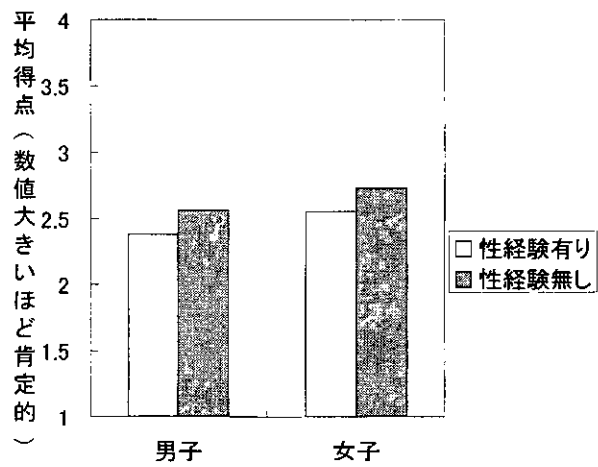


図2 純潔性に対する価値観

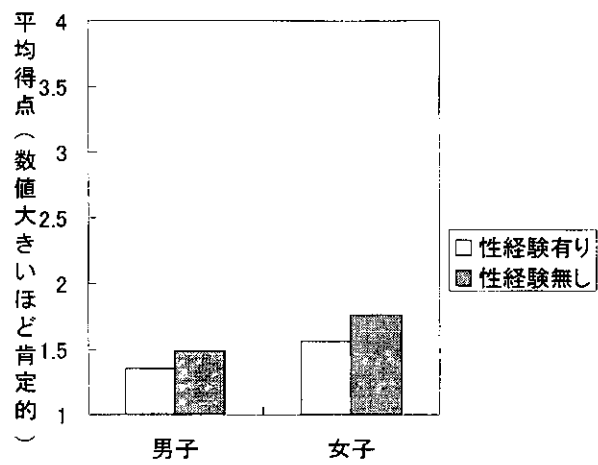


図3 同性愛に対する価値観

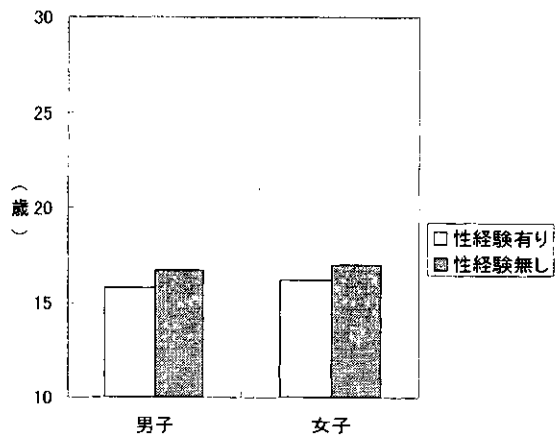


図4 男性は何歳まで性交経験をすべきでないか

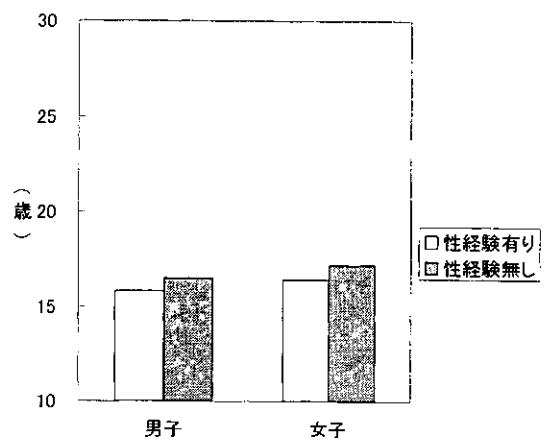


図5 女性は何歳まで性交経験をすべきでないか

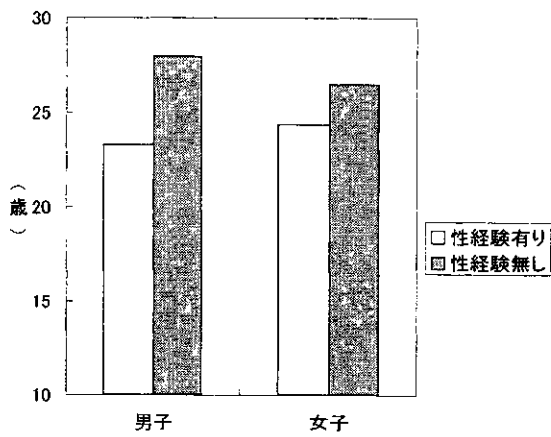


図6 何歳まで童貞でいたら遅すぎると思うか

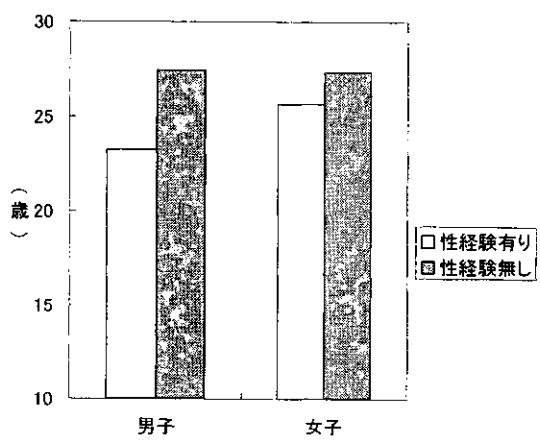


図7 何歳まで処女でいたら遅すぎると思うか



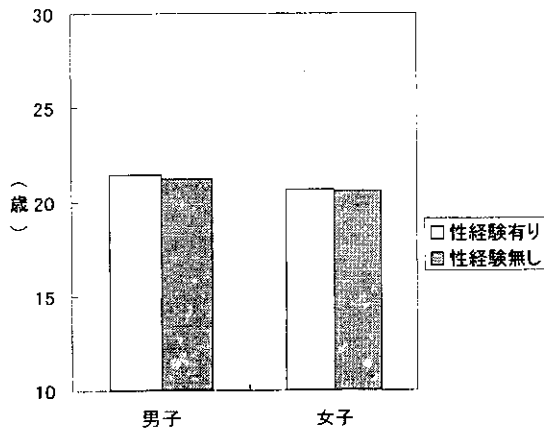


図8 男性は何歳まで結婚すべきでないか

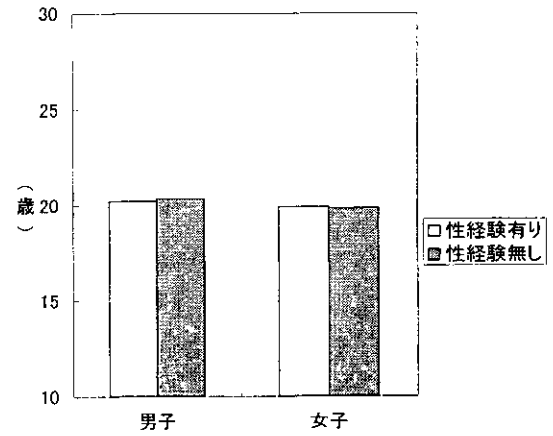


図9 女性は何歳まで結婚すべきでないか

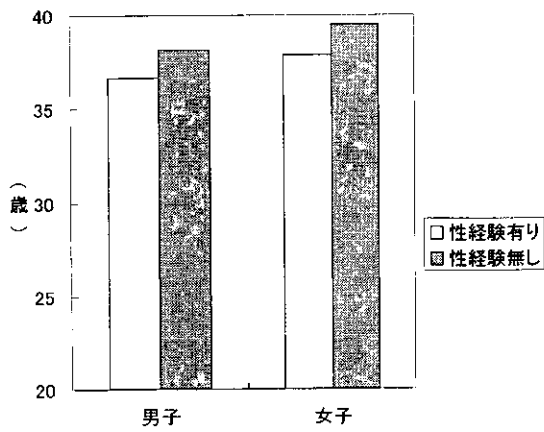


図10 男性は何歳まで未婚でいるべきでないか

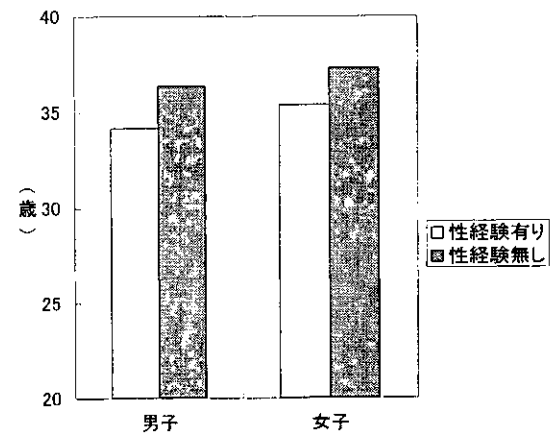


図11 女性は何歳まで未婚でいるべきでないか

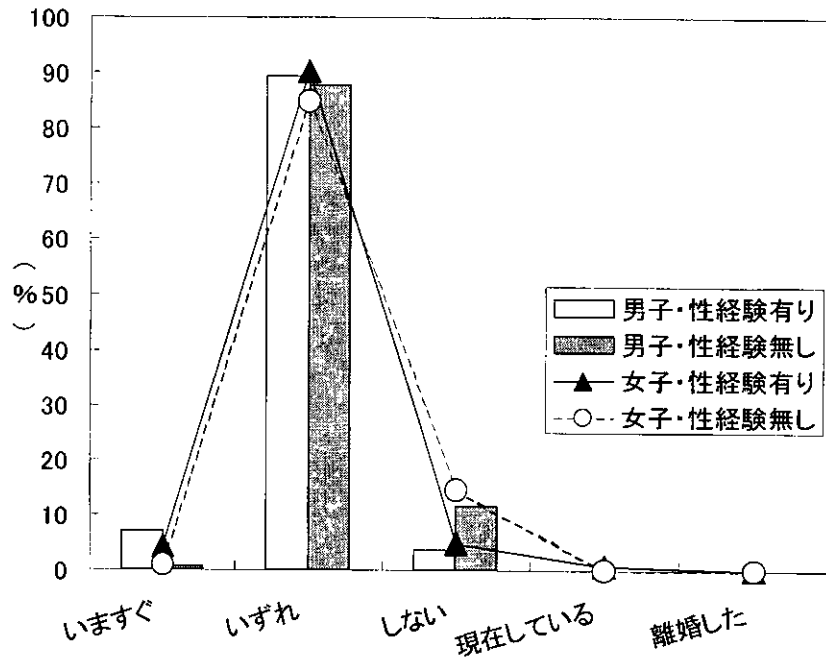


図12 結婚に対する意識

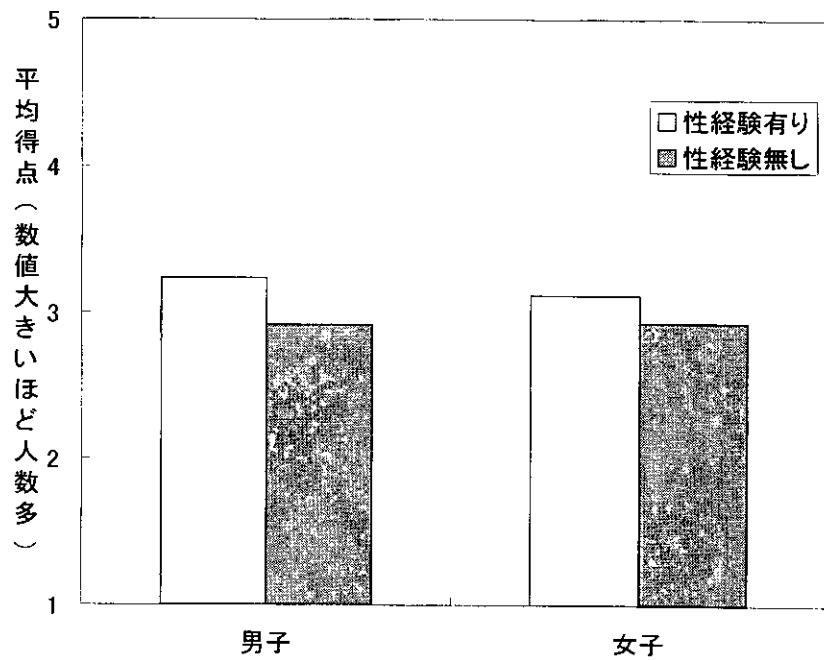


図13 将来、子供を持つことに対する意見

### Ⅲ. 日本における青少年の性行動調査研究の歩み

島崎継雄（日本性科学情報センター）

#### 1. 文献からみた歴史的な先行研究など

##### 1) 山本宣治・安田徳太郎による調査研究など

日本における青少年の性行動調査研究の歩みを記すに際して、我々はまず、山本宣治（当時・同志社大学講師）、安田徳太郎（当時・京都帝国大学医学部学生）によって1922年（大正11）から1928年（昭和3）の7年間にわたる長い歳月を費やして実施、回収された「日本人青年の性生活実相に関する調査」について触れなければならない。今から80年前、当時の帝国主義、封建社会の背景の中であって、この様な調査が実施されたことは極めて稀有なことであり、先人の偉業を改めて我々は評価すべきであろう。

生物学者であった山本は、当時の医学の研究が性の病的表現（当時の言葉で言うところの変態性欲、現在におけるパラフィリア、性嗜好障害）にのみ注目されていることに疑問を抱き、大多数の者の正常な性的常態を明らかにし、正常者の性生活の通則を発見することを願って調査に取り組んだ。

本調査は京阪神、東京、信州、新潟、沼津などの地域の官公私立大学、労働学校等の学生（一部に勤労者を含む）を対象に実施され、約5,000通の調査票が配布されたが、回収されたものは7年間で僅か1,000通弱であったという。山本は「4年近い歳月を費やし、東奔西走し収穫を得た貴重な報告（調査票）が約400通だ」という数字が、本調査が如何に困難なものであったかを示すに十分なものであろう（1924年発行・『生理学研究』1巻3号）と述懐している。

山本らの調査は、回収されつつある調査票の一部を整理し、石川日出鶴丸・京都帝国大学医学部生理学教授の編集する『生理学研究』第1巻及び第2巻に発表されたが、当時の東京帝国大学医学部生理学教授永井潜の反対にあい、研究発表の掲載は中止に追い込まれた。本調査研究が完全に発表されたのは敗戦後の1950年（昭和25）、共同研究者の安田徳太郎によるもので「若い者の性生活」というタイトルであった。

本調査の意義は、既に知られるように、日本における初めての性行動調査であることにある。日本人の性行動を科学的に、統計的に（今日における統計処理とは程遠いものであることは止むを得ない）処理したことの先見性、しかも調査対象者が大学生であったことは誠に当を得たものであった。

その後、1936年（昭和11）に太田リングの研究で著明な太田武夫（典礼）が早稲田大学の学生を対象に「青春生活の調査」の名をもって性行動調査を実施したが、回収率が悪く、

結果を得ることが出来なかったと太田は報告している。

## 2) 朝山新一による調査研究

1945年(昭和20)、日本は第二次大戦を敗戦で迎えた。それまでの国家主義、家父長的、封建思想による価値観は大転換を迫られ、それに伴い、日本人の性意識や性行動は当時の開放的な風潮のもと、大きく変化していった。

1948年(昭和23)、朝山新一(当時・大阪市立大学教授)は急激な社会変化の中であって、若者達の性意識や性行動が、社会からどのような影響を受けているのか、また、混乱した世相の中で、若者に向けての性教育が必要であることの声の有識者の中に聞くが、その若者の性の実態がどうなっているかを明らかにしなければ、性教育の方向は探り得ない、という観点から青年の性調査を実施することにした。

朝山は山本らが行った性行動調査に深い理解をもち、山本らが用いた調査項目を参考に、男性203項目、女性216項目になる大規模な質問票を作成し、京阪神の男子学校6校(官立1、公立1、私立4)、女子学校5校(公立2、私立3)の学生に配布した。年齢は18歳から22歳までの者で、回収された標本は男693名、女283名の計976名であった。

調査方法は集団記入方式をとり、調査者が大学の教室を訪れ、調査の目的を説明し記入してもらい、全員回収を行った。調査に協力したくない者については、その旨を明記してもらったが、非協力を表明した者は僅かに2名であった。朝山は調査方法としてはインタビュー形式が最上であることは承知していたが、時間と費用の余儀ない制限のためにこの方法をとったと記している。

本調査研究には京都大学理学部動物学教室の行動論研究グループの同学の士が協力をおしななかった。報告書の中には今西錦司、小野喜三郎、間直之助、川上泉、梅棹忠夫らの、後年、京都大学における人文科学研究に数々の業績を残した人々の名が連ねられ、朝山からの謝辞が記されている。

1979年(昭和24)10月、本調査研究は『現代学生の性行動』として京都・臼井書房から発行された。朝山は本書の巻末に結語として「ここに明かされた事実は、ひとつの限られた地域の、限られた年齢範囲の学生の性生活の実態である。したがってこれを学生全般の性行動をしておしひろげることは危険である。一中略— しかし、ここに現れた結果が、教育の実際面に示唆するところは多いと思う。—後略—」と述べており、暗に若者のための性教育の充実を計るべきことを提唱した。

## 3) 篠崎信男による調査研究など

朝山新一の『現代学生の性行動』調査とほぼ時期を同じくして、厚生省人口問題研究所(現・国立社会保障・人口問題研究所)第4科長の篠崎信男は「日本人の性行動」調査を実施した。篠崎は当時の人口問題研究所における産児調節の実態的研究を進める中で、「産